平成２９年度　第２回北海道立総合博物館協議会　議事概要

会 議 名	平成２９年度　第２回北海道立総合博物館協議会
開催日時	平成３０年３月２７日（火）　１３時３０分～１５時３０分
開催場所	北海道博物館　講堂
出席委員	大原昌宏会長、澤田一憲副会長、宇佐美暢子委員、児島恭子委員、佐々木史郎委員、竹垣吉彦委員
欠席委員	湯浅真紀子委員
出席者 （博物館、本庁）	石森館長、梅木副館長、中村アイヌ民族文化担当副館長、小川学芸副館長兼アイヌ民族文化研究センター長、川田総務部長、舟山学芸部長、右代学芸主幹、会田学芸主査、村上学芸員、遠藤研究職員、冨樫主幹（アイヌ政策推進室）、林主査（文化振興課）
傍聴者	なし

【議　題】

（１）　北海道博物館　第１期中期目標・計画期　中間外部評価報告

・「北海道博物館　第１期中期目標・計画期　中間外部評価報告書（写）」に基づき、平成 29 年度第１回北海道立総合博物館協議会（平成 29 年 9 月 12 日開催）において実施した、「北海道博物館 第１期中間目標・計画期 中間外部評価」（平成 27・28 年度の内部評価に対する評価）の結果について、大原会長から報告が行われた。

・同報告書は、石森館長に手交された。

（※　文化振興課を通じて、知事への報告とする予定）

（２）　報告事項１　平成 29 年度　北海道博物館事業実績報告

（３）　報告事項２　平成 30 年度　北海道博物館年度計画

・資料２及び資料 3 に基づき、北海道博物館の平成 29 年度事業実績ならびに年度計画について、川田部長、舟山部長、小川センター長から報告を行った。

・主な意見・質疑応答は以下のとおり。

(1) 国立アイヌ民族博物館との関係について

（委員）　国立アイヌ民族博物館と北海道博物館の役割について、どのような違いがあると整理されているのか。また、連携はしていくのか。

（事務局）基本的な大きな目標である「アイヌ文化の振興・普及啓発に資する」という点では２館とも同じであろうが、当館は北海道立の博物館であることから「北海道の歴史・文化・自然」を軸としており、その理解においてアイヌ文化は欠かせないと位置づけている。国立アイヌ民族博物館は、アイヌ民族文化自体を軸としている点で異なると言える。

連携については、国立博物館の体制やネットワークの準備ができてきたところだが、資料の相互貸し出しによるデータの共有等を考えている。

（委員からの補足）国立アイヌ民族博物館としては、北海道博物館とは相互協力や共同研究などを進めたいと考える。国立博物館は、収蔵容積がそれほど大きくならない予定なので、資料そのものは各市町村等で保管して

もらいつつ、国立博物館は情報共有によるネットワークの拠点を目指すことを考えている。

(2) 来館者数減少に関する評価について

（委員）　来館者数が減っているが、それでも展示を含む「総括評価番号１・２」を内部評価では評価基準を「Ａ」としている。これは来館者数に満足しているのか。

（事務局）「総括評価番号１・２」については、展示だけではなく、資料収集・保存管理、調査研究なども含めているので、それらもあわせて総体的に評価して評価基準は「Ａ」とした。

（委員）　来場者数減少という結果に問題があるのではないか。現状でよいと考えているということか。

（事務局）広報や入替展示を目新しくするなど、来館者減少に歯止めをかけるため、改善すべく考えている。

(3) 学芸職員の質の維持・向上について

（委員）　利用者数の維持とは、北海道博物館が道民の支持を得ているかであると考える。その支持をささえるひとつは、学芸員の質の維持・向上であると考えるが、たとえば論文を書いていない学芸職員については、ガバナンス体制において何らかの措置を取る等しているのか。

（事務局）論文執筆のほか、展示・講座等の実施状況も含めた、各学芸職員の研究成果の発信状況は確認しており、何もしない職員がいないようにしている。ガバナンス体制としては、人材を活かせるようにしていきたい。

(4) 道民参加型組織について

（委員）　北海道博物館への道民の支持をささえる、もうひとつは道民参加型組織であると考える。これについては３年間進んでいないが、これについてのガバナンスはどうなっているのか。

（事務局）道民参加型組織については、来年度確実にスタートさせることで、館内で再確認したところである。

（委員）　必ず実施してほしい。

(5) 広報体制の充実について

（委員）　博物館の広報は、単に「広報戦略に沿って実施」ではなく、具体的に何を実施するのかを提示してほしい。来館者減少に歯止めをかけるには、今までやってきていないことをやることが必要であると考える。工夫を求めたい。

(6) 評価制度について

（委員）　外部評価の項目と年度計画の項目が一致していないのは、やはりわかりにくい。「来年度の重点課題」がわかりやすいように、項目を対応させてほしい。

(7) 事業のバランスについて

（委員）　来年度は、北海道 150 年事業もあり、新しい仕事も増えると思うが、その分、全体の業務量が増えないように、既存の仕事を削るのか。

（事務局）150 年関連としては、主に特別展を実施するので、他の事業を削ることは、あまり考えていない。むしろ、この３年間で積み残してきた「宿題」を本格的に片づけていく。

（事務局）展示会のカテゴリのひとつであった「蔵出し展」を「企画テーマ展」の枠に統合するなど、削るのではなく、整理している部分は若干ある。

(8)「平成 30 年度　事業計画」資料について

（委員）　年度計画の内容と、「判断数値」とが対応していないように見える部分もある。項目や文言を整理して、わかりやすい資料にしてほしい。

(9) レファレンスについて

（委員）　レファレンスとは、どのような内容なのか。道民の「知りたい気持ち」に答えることなのか、専門的なことなのか。内容分類ごとの提示は可能か。

（事務局）レファレンスは様々なので、内容で分類するのは難しい。そのため、トータルの件数の提示と、こうした場での口頭での説明とさせていただいている。

（委員）　レファレンス件数の記録の取り方はどうしているのか。

（事務局）電話や来館者の対応などを行った職員が、その都度用紙に記入するようにしている。

（委員）　レファレンスは、目標値と実績数とで差があるが、目標値はどのように決めているのか。

（事務局）旧道立アイヌ民族文化研究センター時代の年間のレファレンス数など、過去の実績数をもとに算出している。

(10) 目標値と実績数の差について

（委員）　項目別評価シートでは、イベント参加者数、はっけん広場の利用者数等、それぞれの数値について「分析をする」としているが、その分析結果を教えてほしい。

（事務局）はっけん広場利用者は、入館者数の減少の影響で、今年度は目標値に達成しなかった。イベントについては、各イベントの定員数の 80%を目標値としているが、「北のみゅぜふぇす」のような定員を決めていない、かつ１日がかりのイベントを実施した影響があり、目標値を達成できたものと考えている。

(11) 展示計画について

（委員）　いつ、どのような展示にするのかというリニューアルの計画についてどのように考えているのか。

（事務局）短期・中期の計画を立てるために、館職員へのアンケートを実施し、現在検討中である。

（３）今後のスケジュールについて

・資料４に基づいて、平成２９年度の協議会スケジュールについて事務局から説明を行った。